



1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社

インターネットという言葉が一般にあまり知られていなかった八四年、東大、東工大、慶大の研究室のパソコンを電話回線をつなぎ、電子メールなどをやり取りする「JUNET」をつくりました。

山ろく清談



インターネットという言葉が一般にあまり知られていなかったことが次々に起き対応を迫られます。最近も、東大大学院の助手がインターネット上でゲームソフトなどを無料入手できるソフトを開発し、著作権法違反のほかに助罪で逮捕されました。複製できないはずのソフトを複製できしてしまう技術が新たに出現したわけです。

村井 純さん



慶大環境情報学部教授、慶大SFC(湘南藤沢キャンパス)研究所長。インターネット研究の第一人者で、国のIT戦略本部メンバー。49歳。松本市のおかたの森。

「ルールが後追い」健康的

私の根本的な考え方は常に「ITは下支え」です。インターネットは、水道やガス、電気といったインフラ(社会基盤)と同じように、生活の中に当たり前にあるというのが理想なんです。IT基本法は、そつしたインターネットが生活を支えるという発想でつくられたを裏返しようにと提案したら、NTTの担当者から「インフラはそんなに安いものじゃない」とこらわれました。でも、現実には、九九年のNTT再編もあって競争が活発化し、高速インターネットを築き始めるDSL(デジタル加入者線)が爆発的に普及。高速ネットの情報量当たりの通信費は、世界一安くなりました。発展の基盤は整ったと思います。

最近、よく長崎県佐世保市の小六女児事件について感想を聞かれます。被害女児と加害女児が、インターネットの「チャット」という機能で会話をしていたからです。「子どもにはチャットや電子メールをさせない方がいい」と言つ人もいます。でも、あの事件は、子どもの倫理・道徳観をどう形成するかという、人間社会の根本的な問題が背景にある。ネットは一つの要因ではあっても、原因ではなかったはずなんです。

技術に責任を転嫁するべきではないと思います。これからは家庭の電気や風呂と同じように、インターネットのない社会は考えられない。私たちは、技術の進歩と向き合い、ルールがどうあるべきかを考え、子どもたちに教えていくことで、問題を一つひとつ解決していくしかないのです。